

「か」「ふ」「り」も合言葉に、生きる土台を育む



山、川、海と恵まれた自然に、駅や商業施設など利便さを併せ持つ地域にある加布里小学校。カキ小屋で有名な船越湾の加布里漁港では、毎年秋に花火大会が開かれ、4年生が大漁旗の法被を着てソーラン節を披露します。

加布里小が大事にしている言葉、それが「か」「ふ」「り」です。「か…考える、かしこい子ども」「ふ…ふれあう優しい子ども」「り…りっぱにやり遂げる子ども」の頭文字を取っています。『考える』は、自分の頭で考えること。『ふれあう』は、けんかをするのがあっても、きちんと折り合いをつけて、人間関係がつかれること。そして、『りっぱにやり遂げる』ことで、諦めない、成し遂げる力をつけること。子どもたちには行事や学期の節目ごとに、繰り返し伝えています」と矢野重子校長。シンプルでわかりやすいフ

レーズなので、子どもたちにも浸透しています。加布里小の子どもたちは、「かぶり」の言葉のもと、未来に向けて必要な力を育んでいるのです。

地域の人も子どもたちの育ちに積極的に関わっています。毎年夏の終わりには校区内を流れる長野川で、手作りイカダで遊ぶ取り組み「長野川で遊ぶ」を開催。PTAと子ども会育成会が主体となり、交通安全協会や昼食担当の食進会、地元消防団など地域が協力し合うことで実現しています。また公民館では、地域に住む元小学校教師などが先生となり、勉強を教える活動「ASK(アスク)」が5年以上開かれ続けるなど、地域の力で子どもたちの育ちの場を整えています。



校区内に流れる長野川にて手づくりのイカダで遊ぶ



公民館で開催されるASKは、地域の力を活かした学びの場